


No.	4	
学区	唐崎学区	
主な相手先	唐崎学区文化協会史跡ガイドの会の皆様	
日時	2019年5月8日（水曜）	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唐崎学区での大きな歴史的史跡といえば、6つある。高穴穂宮、穴太廃寺、崇福寺、唐崎神社、唐崎城、旧海軍の航空隊の基地 ・ 唐崎学区にはかつては渡来人の集落があり、渡来人に関する史跡などがある。この地域にいた渡来人は非常に有能で、琵琶湖の反対側（現野洲市周辺）の開拓に功績があったようだ。しかし、渡来人に関する活動や風習といったものは残っていない ・ 広大な田園地帯であったからこそ、旧海軍の基地ができ、毒ガスの実験場ができたという歴史がある ・ 唐崎城の戦い（後醍醐天皇と足利尊氏の戦い）で使用された堀が今も川になって残っている。太平洋戦争後、進駐軍による水害対策として、川の動線に変更が加えられているが、まだ残っている ・ 高穴穂神社の春祭は有名（5月3日開催）。御旅所が、仲哀天皇が生まれたところにあったことがある。今は、人が少なくなり、祭の規模が小さくなったので、そこまで神輿がっていないのではないか ・ 唐崎神社周辺、穴太村周辺、滋賀里の八幡神社周辺の3つの区域に分かれている。それらと新しい住宅地に住む人の融合がうまくいっていない ・ 唐崎学区は、かつては広大な田園地帯であり、古い住宅地がない。そのため、神社と言うと、唐崎神社、滋賀里の八幡神社、高穴穂神社と限られてくる。それぞれの神社では祭礼をされている ・ 唐崎神社の氏子域は唐崎神社周辺に限られている。新興住宅地の人を迎え入れる感じではない。唐崎神社周辺の人には下阪本のほうとのつながりが強い ・ 滋賀里の八幡神社の祭礼は古くからある。こちらのほうは、氏子の勧誘にこられる。子ども神輿も自治会ごとに出して、16基ぐらい出る。昔は、神輿だけだったが、今は子ども神輿も出して盛大にやっている ・ 穴太廃寺や崇福寺を再興してほしい ・ 観光バスが停まる場所がない ・ 交通状況がよく、自家用車が走りやすいためか、路線バスが走っていないので、車がないと交通の便が非常に悪い 	

- ・新しく入ってきた人は、唐崎学区に旧海軍の基地があったことや毒ガスの実験場があったということを知らない。毒ガスの実験場の跡地が有効利用できないのであれば、史料館を作ってはどうか
- ・史跡ガイドの会では、地元の歴史を知ってもらうためのカルタを作成した。費用の都合でたくさん印刷することはできないが、協力費としてカルタを有償にしたりして少しずつ印刷している
- ・史跡ガイドの会では、地元の歴史を知ってもらうため、冊子を作成し、唐崎市民センターの図書コーナーに常設している。昔は、非常に持ち帰ってしまう人が多く、管理の都合上、常設することをやめることを検討したこともあったが、図書コーナーに「持ち帰り厳禁」の棚を用意していただき、今も常設している。
- ・史跡ガイドの会で作成した冊子をきれいな本になるように印刷したいと思っている。行政には、地元が作成した資料や冊子を印刷する手助けをしてほしい
- ・史跡ガイドの会では、独自に史跡をめぐる会を催しており、毎回多くの参加者に来ていただいている。広報や京都新聞に告知してもらって、周知している。今年は、唐崎学区内で江戸時代には整備されていた下水道網を巡る企画にしたが、今回は参加希望者が少ない
- ・郷土歴史家や語り部の人を講師にした講座を主催してほしい
- ・市が運営する歴史ガイドの組織を立ち上げて欲しい。今は、会費や自治連合会からの補助などで運営している。そのような活動の補助でもいい
- ・史跡ガイドの会で独自に歴史を伝える案内板を作っている。年月が経つと見えなくなってくるが、今は地元の人が寄付してくれて修繕できている。行政で経年劣化しないようなちゃんとしたものを作ってくれば、地元の歴史をみんながもっと知ることができる
- ・KKRホテルびわこ（国家公務員共済組合連合会びわこ保養所）に郷土歴史家の方が作成された冊子をおいて、見ていただいている。KKRに来られる方がその冊子を見て地域の歴史を知ってくれるよい機会となっている。ぜひそのような活動を支援する仕組みを作って欲しい